

第1章 平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代の遺物が出土する小串構内など、周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺での既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合いなどを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の方法によって調査を実施している。

平成11年度は事前調査1件、試掘調査1件、立会調査7件の計9件の調査を実施した。事前調査は平成10年度に引き続き宇部市域土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査を、宇部市域遺跡発掘調査団を調査主体として、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で実施した。教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う立会調査については、同試掘調査と合わせて報告する。

Tab.1 平成11年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	調査担当	挿図番号
事前	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)	小串		818.9	5月26日～ 9月13日	村田・金子	Fig.48 No.33
試掘	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修工事	光		48.7	11月15日～ 12月10日	田畑	Fig.52 No.19
立会	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力 線路施設整備工事	吉田	O-15・16, P-14	6.6	5月10～14日	田畑	Fig.47 No.218
	九田川河川局部改良工事	吉田	F・G-13, G・H-12	222	6月1日・8月9日 12月14日	村田・田畑	Fig.47 No.219
	第2学生食堂北西擁壁新設工事	吉田	N・O-14	43	11月25日	田畑	Fig.47 No.220
	サッカー場南側防球ネット新設工事	吉田	G・H-22	3.2	3月10日	田畑	Fig.47 No.221
	第1体育館・共通教育本館スロープ 新設工事	吉田	H-15, K-15・16	201.1	3月22・23・ 30日	村田	Fig.47 No.222
	基幹環境整備工事(外灯新設)	吉田	I-12, K・L-18, L-15, M・N-17	4	3月21・27・ 30日	村田・田畑	Fig.47 No.223
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修工事	光		179.3	2月7・14・21・ 3月3日	田畑	Fig.52 No.19

吉田構内の調査 (本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市吉田 1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田 3003 所在)

立会調査 6 件を実施した。第 2 学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会調査では、C 地点で遺物包含層と遺構面 2 面を確認し、弥生土器、古代の土師器、須恵器を主体とする遺物が出土した。また、D 地点では河川埋土を検出し、古代の土師器須恵器が出土した。C・D 地点で出土した古代の須恵器の多くは第 2 学生食堂敷地で出土

した遺物と様相が近似している。C 地点の状況は第 2 学生食堂敷地で確認された遺構・遺物がさらに東側に展開していることを示し、D 地点の遺物は北側に位置する第 2 学生食堂・農学部実験畑から廃棄された可能性が高い。

その他の立会調査では顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

白石構内の調査 (教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目 1-2、同小学校：白石三丁目 1-1、同山口中学校：白石一丁目 9-1 所在)

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

小串構内の調査 (医学部、同附属病院、医療技術短期大学部：宇部市南小串 1 丁目 1-1)

事前調査 1 件を宇部市教育委員会と埋蔵文化財資料館が合同で実施した。

宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線) に伴う事前調査では、G・H のトレンチを設定して調査を行った。今回の調査では、水田化以前の二次堆積層からはほとんど遺物が出土せず、全体を通して古代以前の出土遺物は僅少であった。遺構は造成前の水田耕作に伴うもの



Fig.1 山口大学吉田・白石構内位置図



Fig.2 山口大学小串・常盤構内位置図

である。G トレンチは医学部構内遺跡では過去最大の調査面積であり、用水路 1 条・水田暗渠 2 条・土坑 3 基を検出した。用水路は木や竹で補強されており、堆積と改修が繰り返されていたが、掘削時期は不明である。また、用水路の両側には通路があり、北側の一部では水田の区画を確認した。用水路の境に水田面の高さが異なることから、用水路は近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。水田床土（第 3・4 層）からは図化していないものを含めて、18 世紀後半～19 世紀の陶磁器類が多数出土した。これらは真締川の旧河口が耕地化された時期を裏付けるものであろう。平成 10 年度から開始した宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査は終了したが、今回の調査では地域開発史に関わる成果を得ることができた。

常盤構内の調査（工学部：宇部市常盤台 2 丁目 16-1、尾山宿舎：同上野中町 2658-3 所在）

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

光構内の調査（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市室積 8 丁目 4 番 1 号所在）

試掘調査 1 件・立会調査 1 件を実施した。教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘調査では A～G トレンチを設定して行った。層序・遺構について時期別に述べる。調査の結果、B トレンチでは第 5 層から土師器片が少量出土した。詳細な時期は不明であるが、同層は古墳時代の遺物包含層と考えられる。C トレンチでは第 6 層で 5 世紀後半～6 世紀前半の土師器、須恵器、韓式系土器が出土した。また、第 7 層上面でピット 6 基を検出した。ピットからの出土遺物は僅少であるが、第 6 層出土遺物から 5 世



Fig.3 山口大学光構内位置図

物包含層で、第6層上面では溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。このうちSK1からは18世紀前半～後半の磁器が出土した。これらの遺物包含層・遺構は安永年間に設置された室積会所に関連する可能性が高い。また、造成土の直下で検出されたA～Dトレンチ第4層・Gトレンチ第3層は近世～近代の遺物包含層である。Aトレンチ第4層は近代の遺構面形成層で、上面で石積を検出した。出土遺物で特に注目されるのは韓式系土器である。これらはいずれも軟質土器で甕・鉢・甕形土器がある。このうち、外面に鳥足文タキを施す甕形土器は全形がうかがえるきわめて貴重な事例である。

立会調査では、光構内で初となる近世～近代の埋甕をH地点で検出した。J-1・2地点では古墳時代と考えられるピットを3基検出した。このほか、I・K地点で古墳時代の遺物包含層を検出した。

以上の平成11年度調査の報告にあたり、既刊の年報に記載した各構内調査区位置図、平面図、調査面積、出土遺物の時期等を訂正した。

紀後半～6世紀前半と考えられる。このほか、Dトレンチ第6～16層、Eトレンチ第11層も古墳時代の遺物包含層である可能性が高い。Gトレンチでは古墳時代と考えられる不明遺構1基・土坑1基を検出した。また、第11層から縄文土器片が出土した。

Gトレンチ第4層からは縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土し、直下の第5層上面で検出されたPit1は中世の遺構と考えられる。

Cトレンチ第5層は18～19世紀の遺